

地域の皆さまに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



実技の指導と現場での指導風景



■特集

はあとふるグループ メンバーの育成

先輩スタッフの紹介

インタビュー

理学療法士のお仕事

トピックス

公開医療講座で整形外科を学ぼう!

はあとふるグループのICT化への取り組み

～より良いケアの提供を目指して～

新入職員研修を開催しました

“Cafe” Infection Control



島田病院 リハビリテーション部
大塚 愛



島田病院 看護部 看護師
江口 英貴



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永 広 会
社会福祉法人 はあとふる

はあとふるグループメンバーの育成

私たちは、はあとふるグループの使命・理念(※裏面に掲載)に基づき「教育理念」を作成しています。その理念にそって年間の教育計画を立案し実行しています。また、職員にはこんな風なメンバーであって欲しいということを「メンバーの特性」や「メンバーのスピリット」で文章にしています。

はあとふるグループの教育理念

私たちはグループの使命の実現に向け、
ご利用者の自己決定を支援できるよう、技術を磨き、
人の喜び・苦しみ・痛み・悩みに共感できる感性を育て、
適切な対応を、迅速に、チームで実践する基本となる
コミュニケーション技法を修得し、
教育・研修に情熱を持って取り組みます



みんなであそび高齢者体験

はあとふるグループメンバーの特性

- ① 人を総合的に理解できる能力をもっている
- ② はあとふるグループのヘルスケアの概念を理解している
- ③ 職務遂行するために必要な知識と確かな技術を習得している
- ④ 起こり得るリスクを管理し、顧客の安全を確保している
- ⑤ 生命の尊厳と人権を尊重し、顧客に関わることができている
- ⑥ 人の喜び・苦しみ・痛み・悩みを分かち合える温かい心を持っている
- ⑦ ユーモアのセンスがあり、信頼関係を育むことのできるコミュニケーションを実践している
- ⑧ 各自がそれぞれの責任・義務(やるべきこと)を理解し、目標を持ち、達成のために努力をしている
- ⑨ はあとふるグループで実践するチーム運営におけるチーム員それぞれの機能・役割を理解している
- ⑩ 最新のヘルスケアに関心をもち、常に問題意識と向上心を持って職務改善に努めている
- ⑪ 国際的な視野で、地域のヘルスケアシステムに関与している(グローバルな視野で、ローカルに活動する)
- ⑫ プロ意識を持ち、研鑽を積み、成果をグループ内外に発表している
- ⑬ グループ内で職種を超え、ともに学び合う関係が持てている

新たな取り組み

平成24年度は、新たな取り組みとして、階層別のフォローアップ研修を実施しました。ここでは、大切にしている3つの「tion」を紹介したいと思います。

まず、なぜ階層に分けるかについてです。それは、必要なタイミングで学ぶべきことがあるからです。例えば、新規学卒者には、入職時には不足している社会人基礎力を早いタイミングで学ぶ必要がありますし、フレッシュな状態でグループの方針や規定・規則を確認しておくことは非常に重要です。その他に、職種ごとの勉強会や研修会はそれぞれ教育委員会や担当者において、計画的に行われていますが、同世代の多職種が集まる機会は、それほど多くありません。配属されていた先で得た知識や技術の情報交換の場としても有用です。これが最初の「tion」の「Generation」です。

次に、研修中の人との関わりです。まず、組織と個人の関わりについてです。グループ理念に「その人がその人らしく自分の人生をまっとうする」という言葉があります。この「その人」には患者さまやご利用者だけでなく、スタッフも当然含まれます。組織の中で自分らしい人生を楽しんでいるか、満足しているかが問われます。そのためには、組織の方針と、スタッフの想いをすりあわせる機会となるよう、常に心がけています。また、定期的

に研修に参加することで、自分が必要とされていることを実感してもらうことも重要です。そして個人と個人の関わりもあります。「同期」の存在の大きさは、参加者の報告書からうかがえます。そういう場を提供することも研修の役割の1つと考えています。こういう積み重ねが、働きがいのある職場風土を作るのです。これが2つめの「tion」の「Motivation」です。

最後に、研修はできる限りワークショップスタイルで行うようにしています。1つのテーマに対して、講義とその倍の時間のグループワークをセットで行います。そうすることで、講師からだけでなく、参加者相互にいろいろな学びや気づきがあり、そこから新たな発想やものを作り出せるよう期待しているのです。これが最後の「tion」の「Innovation」です。

これからも、Generation・Motivation・Innovationの3つを大切に、教育・育成を継続していこうと思います。私たちの成長を見守ってください。



ワークショップ

はあとふるグループメンバーのスピリットI

仲間のいる人は強い
学習を重ねている人は強い
目標を持っている人は強い

「強い」は

ゆたかな感性で ポジティブシンキング
しなやかに したたかに あきらめない
ポキッと折れない めげても立ち上がる
人の意見を聞くことができる
細心で大胆 厳しくやさしい
愛がある



はあとふるグループメンバーのスピリットII

私たちは ひとつの痛み 苦しみ 悩みに出会う
氷の塊のような からだの 心の 痛み 苦しみ 悩み…
ひとつの手でとかすには
冷たすぎて 凍えてしまう
一人では とかすことのできなくても
いくつもの手のひらで包むうちに
それぞれの手のぬくもりで ゆっくりと確実にとけてゆく
治療という手 手術をする手
点滴をする手 清拭をする手
体を動かす手 支える手 肩にふれる手
心にふれる手
痛み 苦しみ 悩みをとかす さまざまな手
ゆっくりと とけながら
そこに癒し 安らぎ、楽しみ、喜びが生まれる
私たちの凍えかけた手は あたためられ ぬくもりをとりもどす
そして 次にすすむ勇気を与えてもらう

島田病院で新人スタッフの教育に取り組む先輩スタッフをご紹介します。

島田病院 リハビリテーション部
大塚 愛



私が入職した頃を比較すると、リハビリテーション部のスタッフ数は格段に増え、気がつけば後輩の方が多くなっていました。経験が増える中、自信を持てる部分がある反面、自分自身まだまだと感じながらも指導することもあり、日々成長させてもらっています。『育成』というと少し堅苦しく感じますが、自分自身で気づき成長するためのサポートをするつもりで後輩育成に関わっています。仕事にしんどさを感じることもありますが、達成感ややりがいを通じて『自分は島田病院にとって必要な一人』ということのを忘れないで欲しいと思っています。つい最近ですが、私一人では難しかった仕事を後輩たちと協力することによって達成することが出来ました。頑張ったことは必ず誰かの役に立つと信じて一緒に成長していきましょう。

島田病院 看護部 看護師
江口 英貴



看護師の仕事はコミュニケーションが大切です。特に看護師としての経験が浅い新人スタッフの対応によって、患者さんが不快な思いをしてしまわないように、言葉づかいや対応方法には気をつけて指導しています。

私の場合は、患者さんが、自分の家族であつたらどんな対応をされたいかを考えて接するように心がけています。スタッフへ指導する時には、このような対応を自分もできているかどうか?を振り返ることができる良い機会にもなっています。

スタッフへの指導をしながら、コミュニケーションについて一緒に考え、共に成長しあえるような指導者でありたいと考えています。

これまでの経験を生かして より働きやすい職場作りに取り組んでいます



島田病院 リハビリテーション部 理学療法士 出水精次さん

理学療法士になったきっかけ

理学療法士になったのは、良くある話ですが、学生時代にスポーツでケガをしたことがきっかけで、スポーツに関わる仕事につきたいと思ったからです。理学療法士を目指している過程で、祖父が脳梗塞となって、回復期リハビリ病棟に入院しました。回復期リハビリ病棟とは、手術などの急性期治療の段階を脱した方が、在宅復帰を目指した機能回復のためのリハビリや支援をうけるところです。家族におこったできごとの影響もあって、卒業してから回復期リハビリ病棟がある八尾はあとふる病院に入職しました。

段階ごとのリハビリを経験し、スキルアップ

八尾はあとふる病院では、回復期リハビリで3年、外来リハビリ、自宅に出向いて行う訪問リハビリを2年間担当しました。その後は、島田病院に異動し、手術後のリハビリを経験しました。また島田病院に併設の疾病予防施設ヴィゴラスでハイレベルスポーツをされている方々に関わる機会もあり、はや3年がすぎました。リハビリには、急性期・回復期・生活（維持）期とさまざまな段階があります。これらの段階を経験することで、自分自身のリハビリの技術や知識そして視野を広げることができると考えて、自分から異動の希望を出してきました。回復期・急性期・在宅を経験することができたのは、身近に上司とコミュニケーションが取れ、相談や指導を密に受ける環境があったことによってできたことだと思います。

これまでの経験を生かした指導を新しく入職してくるリハビリスタッフにつなげていくことも大切です。島田病院の入院担当は、7～8名の少人数の班に分け、スタッフの指導にあたっています。班を取りまとめる班長が、それぞれが担当する患者さんの治療経過を確認し、書類管理、提出書類のフォローをしています。班のスタッフが担当している患者さんのリハビリを定期的に班長が担当し、経過をみて治療状況を共有していきます。スタッフが、迷ったり、悩んだりした時には、相談にのったりもします。標準的なリハビリの提供では、ヒザが曲がりにくい患者さん

にはどんなリハビリをしたらいいか?などのスキルの指導をします。また、高齢者の手術後のリハビリは、長期入院できない島田病院より、回復期リハビリ病院に転院して長めにリハビリできる環境の方がよいかどうか?生活環境を整えるためには老健入所もいいのでは?という相談もあります。八尾はあとふる病院での回復期や訪問リハビリの経験を生かしてアドバイスをしています。時には、仕事以外の恋の相談(!?)にのれるくらい、何でも言える環境作りを心がけています。

リハビリの質を上げるために

年2回グループ内で行っているリハ合同勉強会や外部で行われる学会などへスタッフが発表できるようスーパーバイザーの役割も担っています。自分たちの行っているリハビリを科学的にまとめ考察することは、専門性を高めるためには必要な活動で、スタッフ一人一人が積極的に取り組むことができるようサポートしています。

島田病院は「リハビリテーション機能の充実した整形外科専門病院」です。リハビリの質を高めていくためには、スタッフの教育体制は大切です。少人数の班分けによってタイムリーに相談ができ、コミュニケーションが取りやすく、新人スタッフが成長できる職場作りを心がけています。



年2回グループ内で開催されるリハビリテーション課 合同勉強会開催風景

公開医療講座で整形外科を学ぼう!

島田病院では、整形外科専門病院として、地域の皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただくために公開医療講座を開催しています。肩、腰、ひざなどの関節の痛みや、その対処方法などについて、地域の皆さまにもわかりやすく、整形外科専門医・理学療法士・トレーナーがお話しをしています。この活動は定期的に行っており、今年は下表のプログラムで「LICはびきの」にて開催しました。

テーマによって参加人数に変動はありましたが、多いときには170名を超える地域の方々に参加いただき、整形外科の治療や予防対策への関心の高さを感じました。

地域の皆さまに、整形外科診療に関する知識を深めてもらうことで、医療機関にかかるタイミングや、どの医療機関に診察にいけば良いかなど、医療機関を上手に利用する方法や、疾患予防のリハビリテーションを学んでいただけます。

島田病院は、「リハビリテーション機能の特化した整形外科専門病院」としての活動が地域に根ざしたものとなるようにしていきたいと考えています。次の開催予定は、随時ホームページやチラシなどで案内をしていきますので、ぜひご参加ください。

● 平成25年に実施した講座内容 ●

日 時	テーマ	講 師
2月16日(土) 19:00~20:40 開場 18:30	投球障害のチェック方法と対策 ～夏の大会にベストコンディションで臨むために～	理学療法士 兵頭 惇 全米公認 アスレチックトレーナー 北浦 良明
2月28日(木) 14:00~16:40 開場 13:30	動いてナンボ ～寝たきりにならないために～ 腰痛症の治療 ～慢性腰痛の予防と対策～	理事長 島田 永和 整形外科科長 金田 国一 理学療法士 大嶺 俊充
3月14日(木) 14:00~16:40 開場 13:30	ひざ・股関節痛の治療 ～変形性関節症の予防と対策～	整形外科医長 佐竹 信爾 理学療法士 西谷 知也
4月11日(木) 14:00~16:40 開場 13:30	中高年の肩関節痛の治療 ～予防と対策～	整形外科医長 須川 敬 理学療法士 米田 篤史



理学療法士による実技を交えたリハビリの講義



はあとふるグループのICT化への取り組み ～より良いケアの提供を目指して～

はあとふるグループでは、平成22年度から重点課題の一つとして【システムの構築（ICTを使った情報の共有・活用）】を進めています。

ICTとは、Information and Communications Technology（情報通信技術）の略称です。患者さま・ご利用者の情報を共有し、お一人おひとりによりよいケアを提供していくために、私たちはネットワークとコンピュータの利活用を通して「いつでも・どこでも」「人と人」を結ぶコミュニケーションの基盤作りに取り組んでいます。島田病院、八尾はあとふる病院、介護老人保健施設悠々亭、それぞれの施設の特徴を生かしながら2年間で電子カルテなどのシステムを導入しました。

はあとふるグループの各施設の特徴を生かして 進化するICT

ICTの視点で顧客情報の共有を進めていくためには、今の業務の流れを知ることや書類の見直しだけでなく、業務そのものを改善することが必要でした。そして、はあとふるグループの各施設の特徴に応じてシステムを進化させていきました。

急性期の整形外科専門病院である島田病院（平成23年8月稼働）は手術や術前・術後のリハビリテーションを行う特徴を持っており、外来から入院手術への経過が展開できるように外来段階で各指示・書類を管理できる機能や時系列に閲覧する機能「プロセスチャート」を作りました。多くの情報を早く得ること、同時に処理が迅速にできることが求められ、今回のシステムの基礎ができました。その後、八尾はあとふる病院（平成24年10月）では、回復期リハビリテーション病棟などリハビリテーションを専門に行う特徴から、患者さまの状態を評価する書式の充実を図りました。維持期の役割を持つ八尾

はあとふる病院の介護療養型病床と介護老人保健施設 悠々亭（入所部分 平成25年2月）は、介護保険に対応したケアマネジメントの流れのシステム化とリハビリテーションの予定・実施管理を充実させました。

患者さま・ご利用者にとってのメリットは？

ICT化の大きな柱は、電子カルテシステムと呼ばれる、記録や指示などを記載する診療録（カルテ）や画像や検査結果、書類管理などをコンピュータなどで管理するシステムにあります。

従来の紙カルテでは、見たいと思っても、保管場所まで取りに行かないといけませんでした。また、一つしかないカルテを同じ時間・別の場所でいろんな職種のスタッフが同時に見ることはできず、情報共有に時間がかかっていました。電子カルテシステムで1人の患者さま・ご利用者の情報をいつでも・どこでも共有することが大幅に進みました。また、アレルギー情報や薬の投与チェックができ、書き写すミスがなくなり、安全性も強化されました。また、再来受付機の導入（島田病院にて平成23年12月導入）により、受付がスムーズになり、看護師などがしっかりと事前に病状などをお聞きして、診察に入らせていただいています。会計システムとの接続で会計のための待ち時間も短縮しました。

はあとふるグループでは、今後も各施設の特徴などをふまえながら、電子カルテシステムの機能強化を続けています。

大切な情報を守ります

私たちは、患者さま・ご利用者の大切な情報をお預かりしています。ICTの宿命とも言えるべき機器の故障や不正なアクセスや情報漏洩などが起こらないように、ウイルス対策などのセキュリティ対策や個人情報保護の徹底など、法令遵守をします。情報共有が進んだからこそ、より安心して頂けるように適切に管理・運用していきます。

患者さま・ご利用者の情報を多職種で共有して、より良いケアを提供していきたい、そんな職員一人ひとりの思いが形になったのが今回のICT化への取り組みでした。

そして、ICT化により蓄積された情報をマネジメントし、ケアの質向上につなげるよう努力を続けていきます。

法人本部 クオリティマネジメントセンター
情報システム課 課長 佐藤 貴志



新入職員研修を開催しました

平成25年4月1日(月)～5日(金)老人保健施設悠々亭 6階会議室

初日は入職式があり、参加した41名の新入職員は緊張の面持ちで島田理事長から辞令を受け取りました。入職式の後は、医師やセラピスト、看護職、介護職、相談員、事務職員などさまざまな職種が入り交じって、新入職オリエンテーションを行いました。

研修の5日間は、島田理事長の「はあとふるグループの理念・使命／はあとふるケア」についての講義から始まりました。プログラムは社会人として必要な主体性、社会性を講義やグループワークで楽しみながら学び、チームワークを体験できるよう組まれています。この研修で新入職員が、ヘルスケアサービス従事者として必要な基本を身につけます。

プログラムの一部をご紹介しますと、安全や感染管理、臨床で役立つ介護技術の指導や高齢者体験、メンバーシップについてなどです。倫理研修では、医療従事者として考えさせられる題材になっていて、一人ひとりの思いや考えを述べることができ、とても有意義な時間となりました。講師は、すべてはあとふるグループの管理者やスタッフが担当しており、先輩スタッフと新入職員がふれあう場にもなっています

5日間の研修は、新入職員にとって、短く感じたようで、充実した研修となりました。半年勤務した10月には、1泊でリフレッシュ・アップ研修を予定しています。



実技指導



新人研修参加者

2012年11月からの主な行事報告

開催日	研修名	研修内容
2012年11月10日(土)	フォローアップ研修④	リーダークラスの役職者、および上司推薦者を対象とした研修です。講義やグループワークを行い、内部分析、外部分析を行い、実行計画を遂行するためのポイントや計画立案に関する経験を養うことを目的として開催しました。
2012年12月13日(木)	ホノルル感染管理研修報告会	ハワイホノルルで開催された感染管理研修に参加した総務部 望月 看護部 江口の2名からの報告会です。海外のヘルスケアサービスの紹介に私たちも刺激をうけ、良いところは取り入れ、改善につなげていきます。
2013年1月19日(土)	目標設定戦略会議	主任以上が全員参加する会議です。島田エリア、介護エリア、八尾エリアのグループに分かれ、フォローアップ研修(階層別研修)で出た課題の解決と、平成24年度の振り返りを行いながら、次年度の課題を抽出しました。次年度の部門と部署の方針を決める重要な会議です。会議後はコミュニケーションがとれるよう軽食を準備して食事会も行いました。
2013年2月21日(木)	消防訓練	羽曳野地区の全職員を対象とした訓練です。万が一火災がおこった場合に被害を最小限にするための訓練を行いました。職員一人一人が、普段から防火意識を持って行動できることを目的として開催しました。
2013年2月7・8日(木金)	医療安全研修会	羽曳野地区の全職員を対象とした研修です。竜田メディカルセンターの研修に参加したスタッフからの伝達講習と、実際にAEDを使用する訓練を行いました。
2013年3月21日(木)	羽曳野地区安全運転講習会	全職員を対象としており、運転時の危険察知や事故防止策などを学び、送迎もサービスの一環としてより安全な運転を心がけることを周知することを目的とした研修です。
2013年3月23日(土)	経営計画報告会	平成25年度に向けた、はあとふるグループの各エリアでたてた経営計画及び、実行計画などを報告しました。

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

- 1.「確かな知識と技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

中国における鳥インフルエンザA(H7N9)を指定感染症へ

連日、報道されている中国における鳥インフルエンザA(H7N9)ですが、日本での拡大を懸念し政府は指定感染症と位置づけました。実は、感染経路がまだ、明確になっていませんし、わからないところもたくさんあります。WHO(世界保健機構)が慎重な発言にとどめているのも、よくわからないことがあるからでしょう。たとえば、生きた鳥が原因であるなら、生きた鳥の近くにいた人がもっとたくさん感染するように思うのですが、むしろ発症していない人の方が多いのはなぜだろう。そして、鳥に近寄っていない人が発症しているのは、ヒトからヒトの感染経路があるのではないかと疑うところですが、その割には発症した人の数が少ないのも不思議に思われます。

しかし、感染対策は、拡大させないことが一番大切なことです。ので、わからない時は、「最もリスクが高いと考えた方法を選ぶこと」が基本的な考え方です。そして、後に詳しくウイルスが解明されれば、また、リスクに応じた方法に位置づけられます。なので、インフルエンザA(H7N9)を期間限定の指定感染症に上げたと考えられます。

さて、台湾からも1名発症の報告がありました。WHOは「感染源やウイルスの保有宿主についての調査を進めていること・感染源が確認されるまでは、今後もこのウイルスに感染した患者が発生すると予想されること・現時点では、人から人に感染が続いているという根拠はないこと・入国時の特別なスクリーニングおよび渡航や貿易を制限することを推奨しない」(4月26日)と述べました。

私も含めて実行する予防策は手洗いと咳エチケットです。そして、鳥に直接触ったり、病気の鳥や死んだ鳥に近寄ったりしないことです。特に中国など発生地域に行かれる方は、ご留意下さい。

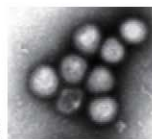
また、海外へ行かれる前には、厚労省FORTHのホームページを必ず確認し、行き先にどのような感染症が流行し、気をつけることは何かをあらかじめ調べておきましょう。

FORTHホームページ:

<http://www.forth.go.jp/index.html>

Influenza A(H7N9)

(国立感染症研究所ホームページより)



はあとふるグループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 ☎072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィオラス ☎072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 ☎072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの ☎072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 ☎072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10